

東北地方 1か月予報

(9月17日から10月16日までの天候見通し)

平成17年9月16日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

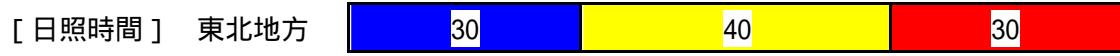
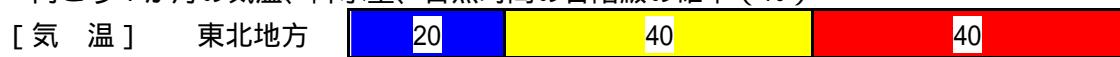
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並か高い、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か高い、2週目は高い、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 9月17日(土) ~ 10月16日(日)

1週目 : 9月17日(土) ~ 9月23日(金)

2週目 : 9月24日(土) ~ 9月30日(金)

3~4週目 : 10月 1日(土) ~ 10月14日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報 : 毎週金曜日 14時30分 次回は9月23日

3か月予報 : 9月22日(木) 14時00分

寒候期予報 : 9月22日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	16.4	178.9	132.4	18.5	17.3	15.3
新庄	15.5	137.5	107.6	18.1	16.6	14.2
若松	16.4	100.1	115.1	19.0	17.4	15.1
深浦	16.1	157.3	147.9	18.3	17.1	14.9
青森	15.6	98.7	159.3	18.0	16.7	14.3
むつ	15.0	137.8	157.5	17.2	16.1	13.8
八戸	15.6	107.0	154.1	17.9	16.6	14.4
秋田	16.6	148.3	153.1	19.0	17.6	15.3
盛岡	14.9	108.2	139.1	17.4	16.0	13.6
宮古	15.8	173.9	139.0	17.9	16.7	14.6
酒田	17.4	162.3	145.7	19.7	18.4	16.3
山形	16.3	97.4	124.5	18.8	17.3	15.0
仙台	17.5	163.7	132.0	19.5	18.4	16.4
石巻	17.0	136.6	141.8	19.1	17.9	15.8
福島	17.6	137.4	121.1	19.8	18.6	16.5
白河	16.0	159.3	118.5	18.1	16.9	14.8
小名浜	18.6	191.9	133.0	20.5	19.3	17.6

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.2	80~110	93~107
東北日本海側	-0.6~+0.2	83~115	93~107
東北太平洋側	-0.5~+0.1	78~111	93~109

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.4	-0.5~+0.4	-0.5~+0.4
東北日本海側	-0.7~+0.4	-0.6~+0.4	-0.6~+0.5
東北太平洋側	-0.6~+0.5	-0.5~+0.4	-0.5~+0.5

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。

階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成17年9月16日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(9月17日~10月16日):

天気は数日の周期で変わり、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(9月17日~9月23日):

東北北部は期間の前半にかけて、気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多いですが、期間の後半は高気圧に覆われ、晴れる日もあるでしょう。東北南部は期間の始めにかけて高気圧に覆われ、概ね晴れますか、期間の中頃から終わりにかけては、気圧の谷の影響により曇りで雨の日もある見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

2週目(9月24日~9月30日):

天気は数日の周期で変わり、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(10月1日~10月14日):

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

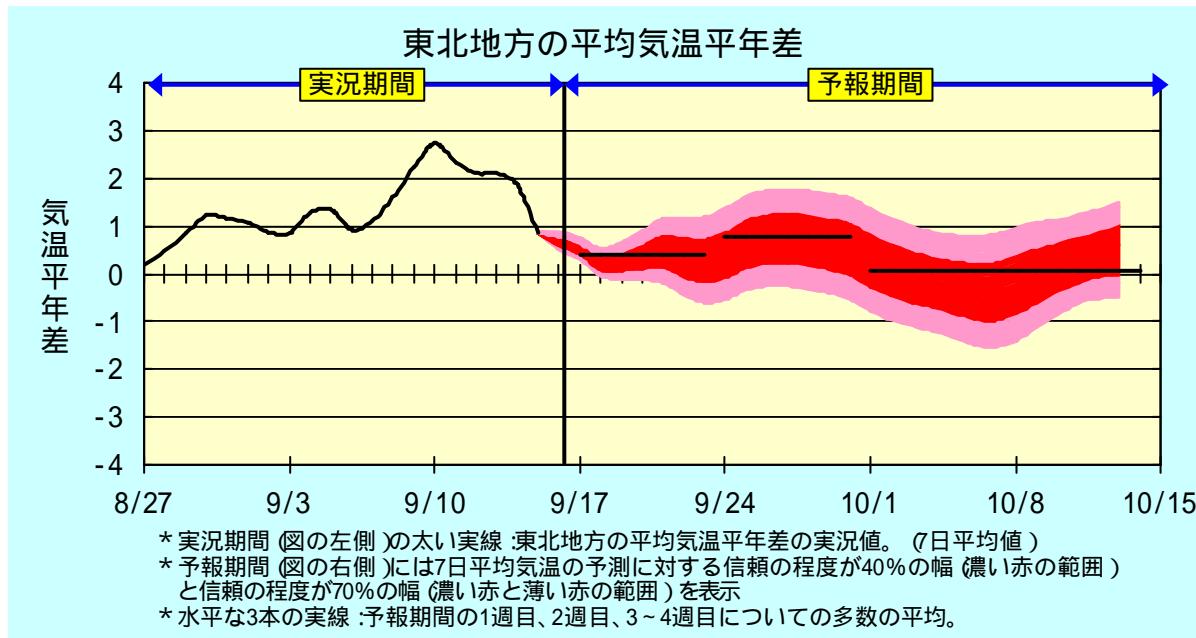
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	13.5日	3.5日	3.1日	6.9日
東北太平洋側	13.8日	3.2日	3.3日	7.3日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「平年並」、2週目は「高い」、3~4週目は「平年並」と予測している。予報はその他の資料から、1週目を「平年並か高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

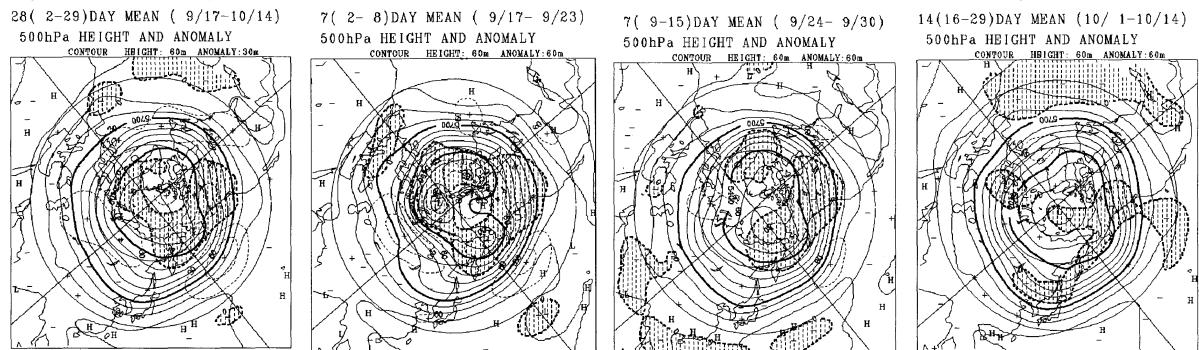


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、高緯度に負偏差が広がるが、中緯度帯は正偏差に覆われ、日本付近も正偏差。東経90度付近と日付変更線付近で正偏差が強い。

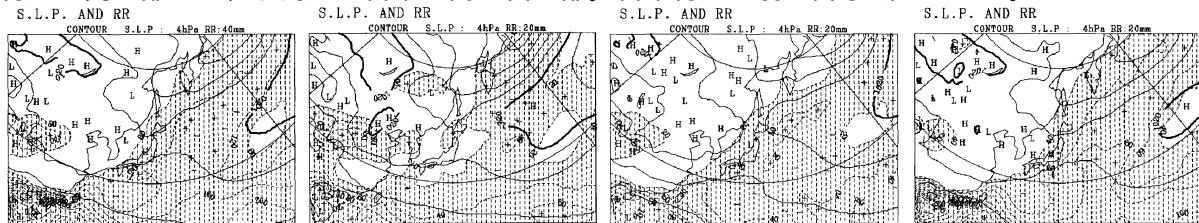
1週目は、極東域全体が弱い正偏差で、正偏差の中心は朝鮮半島付近。シベリア東部に分流が見られる。2週目は、日本付近は東西に広く正偏差となるが、高緯度と低緯度では負偏差が広がる。3~4週目は、バイカル湖から北海道にかけ負偏差となるが本州以南は正偏差。



地上気圧と降水量：

月平均では、平年と同様に大陸と太平洋に高圧部が分布し、日本付近も帶状の高圧部。太平洋高気圧は中心付近が強い。ただし、北海道や日本の南は低圧部。日本付近は弱い降水域がかかる。

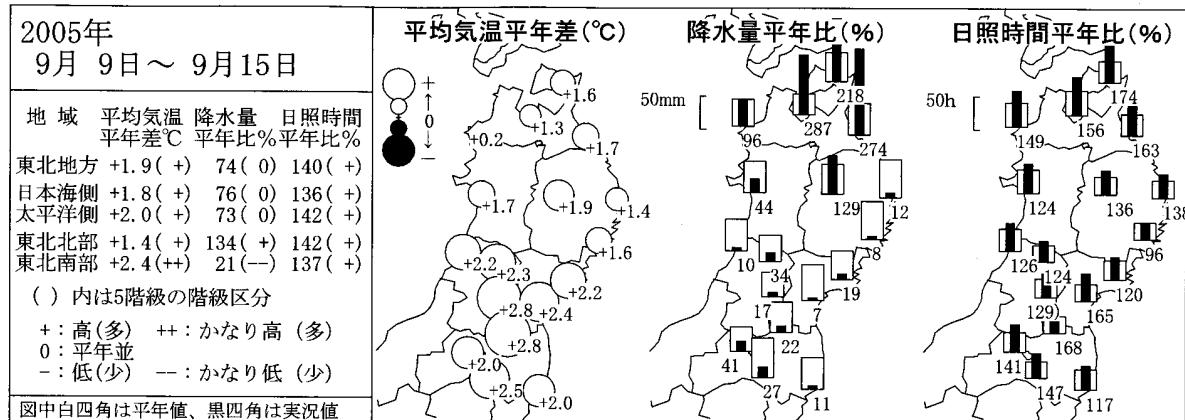
1週目は、日本付近は帶状の高圧部に覆われる。北海道と東北日本海側に降水域があるが弱い。2週目は、大陸と太平洋が高圧部で、オホーツク海に張り出す高気圧は平年より強い。日本付近は低圧部で、弱い降水域がかかる。3~4週目は、月平均と同様に大陸と太平洋が高圧部で、日本付近も高圧部だが、北海道や日本の南は低圧部。日本付近は弱い降水域がかかる。



4. 最近1週間(9月9日~9月15日)の天候の経過

この期間、高気圧と前線が東北地方を周期的に通過した。10日には高気圧の通過後に暖気が南西から前線と共に入り込み、大気の状態が不安定となって雷となる所があった。11日には東北南部に前線がかかり雨となる所があった。12日には高気圧が通過し晴れたが、13日には前線が北部を通過し曇りの所が多くなり、14日には台風第15号から変わった低気圧とその前線が東北地方にかかり、東北北部を中心に曇りや雨となった。15日は再び西から高気圧が移動してきて東北地方にかかるため、晴れの所が多くかった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北地方が多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)